

もも・ネクタリン特報 ⑪ (ボルドー散布)



※1、秋季ボルドー散布を実施し、越冬菌密度をさらに減らすよう努めましょう。
(風雨による落葉と感染が同時に起こり、次年度への越冬菌が増加します)

※2、裏面には、縮葉病対策について記載しております。本年発生した園地では、参考にご覧ください。

【せん孔細菌病対策 収穫後の薬剤散布】 収穫中の作物、隣接園への飛散（農薬汚れ）に注意

※せん孔細菌病発生園は、ボルドー3回散布を徹底し、散布間隔は14日以内を厳守する。

※台風襲来等の風雨が予想される前日までに散布を実施する。

※薬剤が樹全体に到達するよう、散布前に徒長枝切りを実施する。（重要）

散布時期	第1回 ボルドー散布	第2回 ボルドー散布	第3回 ボルドー散布
散布品種			
・早生種～中生種 ・晩生種(川白、黄金桃など)	収穫後(9月上旬～中旬)	第1回散布から 10～14日後	第2回散布から 10～14日後
・極晩生種(白根白桃など)	収穫後(9月中下旬～)	第1回散布から 10～14日後	第2回散布から 10～14日後

もも

下記のいずれかを選択して散布下さい。

ボルドー 体系

散布時期	9月上旬～（収穫終了後）		
散布薬剤	水	100ℓ 当たり	
	展着剤（アピオンE）	50ml	
	ICボルドー412	3.3kg	
	スミチオン乳剤	100ml	（3日前、6回） ※加用は1回のみ
対象病害虫	せん孔細菌病、モモハモグリガ、ナシヒメシンクイ、ハマキムシ類、カメムシ類		
散布量	10a 当たり：500ℓ		
注意事項	① ICボルドーは、今後収穫を迎える隣接園の果実に飛散しないよう注意する。		

ムッシュボルドー 体系

散布時期	9月上旬～（収穫終了後）		
散布薬剤	水	100ℓ 当たり	
	展着剤（アピオンE）	50ml	
	スミチオン乳剤	100ml	（3日前、6回） ※加用は1回のみ
	ムッシュボルドーDF	200g	
対象病害虫	せん孔細菌病、モモハモグリガ、ナシヒメシンクイ、ハマキムシ類、カメムシ類		
散布量	10a 当たり：500ℓ		
注意事項	① ムッシュボルドーDFに代えて、コサイド3000の2,000倍でもよい。 ② 薬害の発生が心配される場合は、クレフノン100倍を加用する（汚れに注意）		

【注意事項（共通）】

① アピオンEに代えて、KKステッカーの3000倍でもよい。

※KKステッカーは薬液をよく攪拌させながら必ず最後に加用する。

② コスカシバ対策：フェニックスフロアブル4,000倍（収穫前日、2回）を樹幹及び主枝に十分かかるようにする。

ネクタリン

下記のいずれかを選択して散布下さい。

ボルドー 体系

散布時期	9月上旬～（収穫終了後）		
散布薬剤	水	100ℓ 当たり	
	展着剤（アピオンE）	50ml	
	ICボルドー-412	3.3kg	
	劇ダイアジノン水和剤 34	100g	（21日前、3回）
対象病害虫	せん孔細菌病、ハマキムシ類、シンクイムシ類、クワコナカイガラムシ若齢幼虫		
散布量	10a 当たり：500ℓ		
注意事項	① ICボルドーは、今後収穫を迎える隣接園の果実に飛散しないよう注意する。		

ムッシュボルドー 体系

散布時期	9月上旬～（収穫終了後）		
散布薬剤	水	100ℓ 当たり	
	展着剤（アピオンE）	50ml	
	ムッシュボルドーDF	200g	
	劇ダイアジノン水和剤 34	100g	（21日前、3回）
対象病害虫	せん孔細菌病、モモハモグリガ、ナシヒメシンクイ、ハマキムシ類、カメムシ類		
散布量	10a 当たり：500ℓ		
注意事項	① ムッシュボルドーDFに代えて、コサイド3000の2,000倍でもよい。 ② 薬害の発生が心配される場合は、クレフノン100倍を加用する（汚れに注意）		

【注意事項】

① アピオンEに代えて、KKステッカーの3000倍でもよい。

※KKステッカーは薬液をよく攪拌させながら必ず最後に加用する。

② コスカシバ対策：フェニックスフロアブル4,000倍（収穫前日、2回）を樹幹および主枝に十分散布する。

もも【縮葉病】対策について

～縮葉病 次年度に向けての防除対策～

散布時期：10月～11月

散布薬剤： 水 100ℓ
展着剤（ハイテンパワー） 10ml
オキシラン水和剤 200g ※ネクタリンに登録無し

対象病害虫：縮葉病

散布量：10a 当たり 500ℓ ※樹体・枝先に十分かかるよう散布する